

令和 5 年度地域包括支援センター事業中間報告（令和 5 年 11 月末時点）

印西市船穂地域包括支援センター

事業ごとの評価	
総合相談支援業務	<ul style="list-style-type: none"> ・件数は昨年度とほぼ同様である。コロナの影響が落ち着いてきたことで地域住民の方の訪問への抵抗感が低くなり、昨年より訪問件数が増えた。 ・比較的前期高齢者の方が多い圏域の特性から、介護予防的な相談が多いと感じている。介護が必要になる前の段階での事業として、いんざい健康ちょきん運動や通所型サービス C、地域活動等への誘導やつなぎを意識的に実施している。
権利擁護業務	民生委員の世帯調査の時期に「気になる高齢者に気づく視点」を配布し、虐待を未然に防げる状況での関与等の啓発を行った。消費者被害について、警察と連携し認知症カフェ等で情報提供を行った。
包括的・継続的ケアマネジメント業務	市内 5 包括協働で、「インフォーマルサービスについて」介護支援専門員研修会を実施した。研修後、介護支援専門員が生活支援コーディネーターに地域資源の相談をする等の連携が徐々に見られ始めている。
地域ケア会議推進事業	これまでの地域ケア推進会議の積み重ねから、「認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続できること」を地域課題とし、「見守り声掛け訓練」を実施した。引き続き、圏域内の各地区で実施していく。
在宅医療・介護連携推進事業	<p>多職種連携研修会や在宅医療・介護市民講演会等の支援を行った。</p> <p>市内 5 包括保健師看護師会にて、訪問看護事業所リストの見直しをし、居宅介護支援事業所や病院へ配布した。また、訪問看護ステーション連絡会に参加し連携を図った。</p>

認知症施策推進事業	<p>認知症カフェを6年継続して実施してきたことで、当初から参加されていた方が当事者や家族になってきている。地域住民への普及啓発と早期相談につながる契機になっている。</p> <p>市内5包括協働で、認知症地域支援推進員が中心となり認知症の普及啓発を目的に、認知症メモリーウォークを実施した。</p>
生活支援体制整備事業	<p>昨年度地域ケア推進会議で助け合い体験ゲームを実施したところ、自治会が主体となって住民の交流促進を目的に「ふれあい講座」を開催してもらうことができた。また、コロナ禍で停滞していたいんざい健康ちょきん運動の活性化にもつなげることができた。</p>
令和5年度事業中間評価（総括）	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議推進事業と認知症施策推進事業とを連動させ、「認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続できること」を目指し、認知症サポーター養成講座を4回、見守り声掛け訓練を2回、オレンジカフェを5回実施した。今後もますます増える認知症患者への対策として、これらを着実に圏域全体に広げていく。 ・男性介護者の支援を目的に、「男性介護教室～男はつらいよ～」を開催し、管理栄養士と連携し「料理の基本は栄養管理」というテーマにて実施をした。男性ならではの話を聞くことができた。次回は調理実習の実施を検討している。 ・事業計画において、「困りごとの早期発見、早期対応、予防的な対応が出来る地域作り」を目標に取り組んでいる。総合相談では、介護保険が必要になる前段階での相談が増えている印象があり、地域包括支援センター自体の周知が以前に比べてされているのではないかと考える。一方、介護が必要になった際に介護支援専門員へ依頼を調整する時間が以前よりかかっている。また、今後高齢者分野以外で支援が必要な事例が増えることも予測されるため、介護支援専門員へのさらなる後方支援を念頭に、市やいんばケアマネネットワークとも連携を図っていく必要があると考えている。 	